

勝林寺寺報

弥陀初会の聖衆は
算数のおよぶことぞなき
浄土を願わんひとほみな
広大会を帰命せよ



「弥陀成仏のこのかたは」のご和讃から教えて十四首目が今回のこの和讃です。
そして、いままでは阿弥陀如来さまのお徳をたたえてきたのですが、今回のこの和讃からは、阿弥陀如来さまのおはたらき（お浄土の莊嚴）のなかにある衆生（聖なる衆生・菩薩）がうたわれるのです。

この和讃はこううたわれております。
「如来さまが、十方のあらゆる衆生を救うための四十八の願いを成就（じようじゆ）されて阿弥陀如来となつてくださったその最初のご説法の座からして、集まりつづいた聖なる菩薩は数えることもとうてい出来ないほどでありました。」

このように、ご説法のなかに十方無量の衆生を、聖なる菩薩として、広大無辺な会座（えざ）に救いとられる「広大会」とも称すべきこの如来さまを、浄土に生れることを願うほどの人は、仰ぎしたわせていたとこうではないか」

この和讃から私はいろいろなことを思わせていただきました。

まず第一は「阿弥陀経」のおことばです。「ここから十万億の仏土を過ぎて世界がある。極楽というのだ。その世界に仏土があります。阿弥陀という」といつてそれから「今現にましまして説法したまう」といつてあります。

阿弥陀如来さまは、私のために願つて阿弥陀如来となつてくださったから、その最初からこの今まで、私をまん中にすえて十方の衆生を、いつでもどこでも照しよんでいてくださったのです。説法していただくさつたのです。

その「十方衆生」にかけた願心と説法などは、たたらぎそのものが南無阿弥陀仏であり、その

願力のなかに醸（かも）し出される世界が浄土なのかとただかかせてもらいました。

もう一つも「阿弥陀経」のことば。

「弥陀の浄土に生れた者は、みなさとりを得て仏になるべき聖なる人々である。その浄土を願うべきです。なぜかといつて、浄土に生れたならこんなにすばらしい人々と会うことができるのだから。（俱会一処クエイツシヨ）」

如来さまは、「十方衆生」をだれかれなく一人のこらず救おうと願いはたらいてくださるので、その願力に気づきその願力のなかに生れかえつたならば、そこではだれもだれも如来の子として如来の家のなかで真実の出会いができるのです。如来の願力はそういう「広大な出会い」「聖なる衆生の出会い」の場なのです。

昔わかれた親とも、あるいはここでは出会つたこともなかつた人とも、如来願力のはたらいてくださる世界では、相い会うことができるのです。

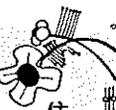
如来
いま
現にましまして
説法したもう

阿弥陀経

今月から各部落に揭示用の法語を送ります。町かどなどに掲示してご利用ください。

葬儀

- 二月一日 市場 多田正夫様
- 二月三日 佐田 石田はつ様
- 二月二十一日 矢根 永井をの様



住職ご次男のおめでた!!

二月一日の代議員会の席上、住職から、かねてからご婚約中であつたご二男匡様と清水美幸様との結婚式が三月一日勝林寺本堂尊前において取り行なわれる旨披露されました。お寺様の慶びはわれわれ門徒にとつても喜びであり心からお祝い申し上げる次第でございます。

会議終了後、代議員及び門徒総代で協議をし、門徒としてもお祝いの微意を表すため、各戸壹千円を集めまじめにお祝いすることを申し合せましたので、何卒ご了承下さいますようお願い致します。

なお、集金は春彼岸前に、前任職坊守七回忌法要懇志と一緒に代議員さんにお世話いたしましたので併せてお願い申しあげます。

代議員会議長 永井 貞雄

大谷本廟で

「連研修了式」!!

出石組「門徒推進者養成連続研修」(「連研」と略称)の第五期中(が、三月八日京都大谷本廟研修道場において「修了式」を挙げる。ご本山の研修部部长・兵庫教区相談員様のご法話などを聞く予定です。

- 勝林寺ご門徒の修了者は次の四名。(敬称略)
- 生田 善七
- 宮嶋 裕之
- 坂本 昭子
- 坂本 さわ子

なお、次期第六期連研への参加申込受付中。

三月のこよみ

- 一日 勝林寺二男匡様婚式
- 二日 兵庫教区組相談員研修会
- 三日 仲田義夫氏宅上法事
- 五日 基幹運動本部専門部会(本山)
- 六日 出石組坊守会(専修寺)
- 七日 湯口富雄氏宅法事・出石組「法輪会」十日講
- 八日 出石組「連研」終了式(本山)・玉井啓介氏宅法事
- 十日 五日会法座
- 十一、二日 兵庫教区仏教婦人会研修会(大谷本廟)
- 十三日 八代光順寺忌明け。教区企画推進室会議(神戸)
- 十五日 谷垣なつ子氏宅法事・石田隆男氏宅忌明け。仏壯公婦合同役員会
- 十六日 兵庫教区運動推進協議会(神戸)
- 十七日 多田隆氏宅忌明け
- 二十日 瀬尾宅祥月・善立寺彼岸会法座
- 二十一日 勝林寺彼岸会法座
- 二十二日 坂本貞氏宅法事・金久繁一氏宅法事
- 二十三日 真覚寺彼岸会法座
- 二十四日 富山市善照寺彼岸会法座
- 二十五日 みのりを聞く会
- 二十八日 島根県勝林寺慶讃法要法話
- 二十九日 同・善立寺法事
- 三十日 平野孫三郎氏宅法事・中川信氏宅報恩講
- 三十一日 姫路「はちす会」講話

彼岸会法座

三月二十一日

- たんき ぼんき たんころりん
- たにしが ころころ ないている
- たんき ぼんき たんころりん
- からすが たにしを つついてる
- たんき ぼんき たんころりん
- ちんちん でんじやも やつてくる
- たんき ぼんき たんころりん
- おひがまいるも つついてる

ときはたつてもながれて、如来さまはいつかはたらいてくださいます。いちばんいいじょうです。つれたつて おまわりください。



ダーナの日に

巡回慰問



二月八日はダーナの日でした。勝林寺仏婦では先の評議員会の申し合せによつて「寝たきり会員」の巡回慰問を行な... 院家様のご法話・河村とし子先生の講話のうえに仏婦からのご挨拶を添えた録音テープ、それから坊守さま手づくりの「きんかんの甘露煮」をお土産に持参しました。 仏婦からのメッセージです。

但馬の冬は長うございます。

この長い冬を、床の中でじつと耐えてご養生であつたあなた様にとつて、どんなに長くつらい毎日であつたことでしょうか。

痛みはございませんか。 たべものはおいしくいたゞいておられますか？

今日わたし勝林寺仏教婦人会が突然お邪魔いたしましたのは、ご病気のお見舞と、それからあなた様へお礼が申しあげたかつたからです。 わたしたちそれぞれ、全く仏法とはかかわりのないところや浄土真宗以外のところから縁づいて来た者がおおございます。 そのわたしたちが、今まがりなりにもお念仏のなかにゆるぎないのちをちようだいし、感謝のうちに日をおくらせていただいておりますのは、それはこの、仏教婦人会というものがあつたからだと思います。

あなた様がお元気なころ、育て盛りあげてくださったこの勝林寺仏教婦人会があつたればこそ、その活動のなかに私も加えていたゞき、その導きでお念仏を聞かせていただく身にしていただいたのです。 あなたは、わたしたち若い者を、お念仏に導き入れてくださった尊いおかたであつたのだと、今わたしたち気づかせていただいたのです。

そう気づいてみると、そのご恩に全く報いることも、またお礼を申しあげたこともなかつた申しわけなさを、つくづくはずかしく思うのでございます。 遅ればせでございますが、今年仏婦の評議

会で、ダーナの日を機として、とにかく一度、お見舞かたがたお礼を申しあげなければと、一同申し合わせたわけでございます。

と申ししても、お見舞・お礼として差し上げるものも思い当りません。 かえつてご迷惑かもしれないませんが、こゝに河村とし子先生のお話とご院家さまが折々にお話しくださつたご法話をテープにいて持参しました。

どうぞ私たちとともにご法話をお聞きくださいまして、老いや病の苦しみのなかに響いてくださる如来さまのお慈悲を、あおがせてもらつてくださいます。

冬の寒さはまだまだ続きます。 どうぞくれぐれもご用心なさつてくださいます。

仏壮だより

三月十五日、勝林寺仏教青年会昭和六十二年の理事会(午前中)と総会(午後)を開きました。

交通事故にあつて入院中の平野稔会長の出席を案じておりましたが、開会前早朝松葉づえ姿で出席、いつものようにテキパキ指揮をとられる姿に一同感銘しました。

春季研修会(観桜会)・別修報恩講・一泊研修旅行の例年の行事のなかで益々仏婦との連帯を強めるとともに、今年からは新たに、「除夜会」(除夜の鐘つき)と七月五日寺の「清掃奉仕」を行事として組み入れることを決めました。 また、会員の慶弔には慶弔規定(明年総会へ提案)を新設し対応しようということになりました。(今年は暫定的に弔辞と三千万の香資) また、仏壮の情報を「勝林寺寺報」を通して積極的に流していこうと申し合はしました。

今年、役員改選の時機でした。 会長をはじめ現役員の方々から固辞を表明されましたが、理事会で協議交渉の結果現役員がそのまま再任していただくことになり総会でこれを認証しました。 再任された役員は下記の通りです。

それから今年度の研修の課題は「浄土真宗の葬儀のありかた」を具体的に学ぶことを決めました。 昭和六十二年度 役員

- (顧問) 永井貞雄 立脇精一 亀井孝
- (会長) 平野稔
- (副会長) 谷垣逸雄 坂本滋
- (会計) 永井勉 宮嶋千秋
- (事務局) 大石正和 横山弘三 岩上三喜夫

おめでと初参式

二月十三日、奥小谷の蔭山義和・文子ご夫妻の第二子「麻衣子ちゃん」(一月三日生)が祖母美佐子さんとおかあさんに伴われて初参式におまいりくださいました。 おにいちやん真人くんもいつしよにおまいりました。 兄妹二人ともとても元気。 如来さまの子どもとして、すこやかにすなおに育ちますよう念じたことでありました。



法輪会春の研修会

出石組「連研」の修了者で組織する「法輪会」が三月七日午後一時半から出石町島の西宗寺で春の研修を行なう。 講師は教区相談員富永真哉師「無碍の一道」というご法話。 「法輪会」会員はもちろん全員出席研修をいただきたいが、会員以外の方もどうぞ。

白菜即席づけ

(材料) 白菜 1kg 砂糖 大きじ1 塩 小じ1.3 酢 大きじ1 にんにく、粉唐辛子 少々

(作り方) 白菜をきれいに洗い、よく水を切つてから、食べやすい大きさに切る。 白菜に分量の材料をまぜ、おしをする。

二三日ぐらいから食べられます。 四日か五日目ぐらいが食べごろです。

春の若芽を

露の薹(ふきのとう)が可愛い芽を出しました。 一 ます。 てんぷらにしてみましよう。 若い薹(なるべく小さなつぼみ)をよく洗い、二、三時間水につけてから水をよく切り、普通のでんぷらのように揚げてください。

二 次は、みそでいただきます。

露の薹を細かく切り、ゴマ油でいただきます。 そこへみそを入れて更にいためてください。

三

よもぎ 小さなヨモギの芽を摘んで湯がきます。(サツと湯に通す) 水分をよく切る。 油でいためて、しょう油で味付けします。

